



連協道路ニュース

発行 横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会 事務局
Tel 090-4825-7174 <http://renkyoueditor.web.fc2.com/>
Mail: renkyoueditor@mail.goo.ne.jp

第 383 号

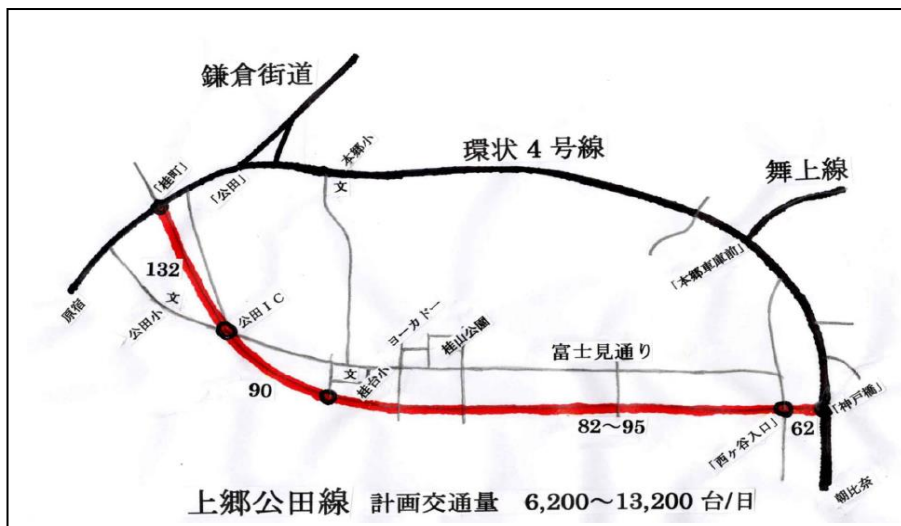
(創刊 1988.12.14)

2021.08.01.

上郷公田線計画は中止せよ！！

上郷～桂台西区間の 2 車線は不要！

上郷公田線は昨年 1 月に事業再評価が行われた。見直し前の計画交通量 13,600 台/日と 9,900 台/日の二つの数字に対し、再評価では 13,200 台/日一つだけになっていたため、横浜市道路局に問い合わせたところ下図に示した区間毎の交通量が回答された。



(図中の数字は、交通量 百台/日)

上郷公田線は環状 4 号線のバイパス道路であり、同時に横浜環状南線公田インターへのアクセス道路として計画された。開通すれば今まで以上に交通量が増える筈です。

道路局の回答では、環状 4 号線神戸橋交差点から西ヶ谷入口交差点間が事業再評価見直し前では 9,900 台/日であったものが今回は 6,200 台/日へ大幅に減少し、西ヶ谷入口交差点～桂台第 4 公園区間が 8,200～9,500 台/日になっている。この将来交通量

予測値は国交省が全国の道路の将来交通量予測したものから出たものであり間違いということではないと言っている。

しかるに平成 26 年の交通量調査では神戸橋交差点の交通量が 4,674 台/日、富士見通りの桂山公園前が 7,699 台/日であり、神戸橋交差点で 1,500 台/日、その先で 500～1,800 台/日しか増えない交通量のために 314 億円もの税金を使って第 1 種低層住宅専用地域に新たな道路を造る必要はない。

計画交通量の 15～20% を占める大型車両を今まで同様進入禁止にすれば殆ど交通量は増えない。開通すれば本郷台行きのバスが走るの便利になると言うが、上之町から犬山町の掘割区間はバス停を設けることが出来ず、騒音と排気ガスが 24 時間出るだけの迷惑道路になる。

見直し後の予測交通量からは、もはや基本とする環状 4 号線のバイパス機能は不必要な上郷公田線計画になってしまったのである。

神戸橋交差点から桂台西までの 2 車線道路を中止し、大型車両は桂町交差点からの 4 車線道路を使って公田インターへアクセスするよう計画を見直せば、事業費を 100 億円は縮減できる。横浜市道路局は区間毎計画交通量について住民が納得できる説明をする必要がある。それができないのであれば即刻計画を中止するよう求める。

(横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会)

桂台シールドトンネル内を見学

7月13日(火)午前、コロナの影響で再三に亘り延期されてきたシールドトンネル見学会が見学者数を27名に絞って実施されました。今回は桂台トンネル工事区近隣住民だけでなく庄戸の方達にも参加頂きました。シールドマシンは現在発進立坑から368m進んでおり、2m掘進したら一旦停止してセグメントを組み立てる作業の繰り返しで一日10m位進むとのこと。

エレベーターで立坑の中に下りて先ず目に入ったのは内壁に設置されたベルトコンベアが掘削土を高速で搬出している様子でした。



目を転じると遙か先までトンネルと下部に設置された避難通路のBOXが続いています。歩行者用通路をシールドマシンに向かって進むと後続台車の最後尾には「地図に残る仕事」の看板が掲示されていました。その手前では避難通路のPCを設置する作業が行われています。更に後続台車の脇を進んでマシンまで到達すると掘進が止ってセグメントを取り込む作業中でした。

現場見学に先立って行われた概要説明で、NEXCO 工事長から「砂岩層を掘進するので振動音が出るのではと危惧したが思ったほどではなかった。」との発言があり、犬山町の参加者から「頭が痛くなった人もいる。皆が我慢していることを忘れないでください。食事時は音が出ない様配慮して欲しい。」との訴えがありました。

5月31日に本掘進を始めてすぐの犬山町の住宅では、敷地間際の土被りが20mの所を掘進するため振動と音がもの凄く眠れな

い程で、工事事務所へ苦情を入れたところ夜間はマシンの回転数を半分に落として振動と音を抑える対策を取ったとのこと。

間もなくマシンは湘南桂台に入り住宅境界間際の地下を掘り進みます。桂台第4公園手前では土被りが20mの浅い所を掘進します。振動や音が酷ければ我慢せず現場事務所へ対処するよう連絡してください。

(ネオポリス・大橋)

「道路の現在と未来」発売のご案内

連協は30年以上の活動を続けこの横環南道路計画の異常さを訴え続け現在に至っています。私たちも所属する道路住民運動全国連絡会はこの度道路全国連四十五年史として題記の記念誌を発行しました。4人の道路に関する研究者の論文を初め、連協を含む各地の団体からの活動報告と今後への提言を含め362ページにも及ぶ今後の運動へのバイブル的なものとして編集しました。緑風出版から全国の書店で7月販売が開始されたものです。

連協も著者の一員として皆様には著者割引の恩典が付きまします。つきましてはこのような運動に携わった記念にお手元に置かれるよう税別の定価2600円でお分けできますのでどうぞ事務局(この連協道路ニュースの連絡先)までご連絡下さるようご案内いたします。(会長 比留間哲生)

対外活動報告

- 07/01 事業者との質問・回答会議
(於：西ヶ谷ハイツ集会所)
- 07/04 東京外環道講演会
「参加トンネル技術者が見た外環陥没事故原因と大深度安全神話の虚構」
- 07/11 東京外環道講演会(吉祥寺南コミュニティ)
会長参加 「低周波音被害とは? 現在何がどこまでわかっているのか、何が問題点となっているのか」
- 07/13 シールドトンネル見学会(西ヶ谷地区)
NEXCO 宗方工事長 連協7名参加
- 07/15 公害総行動に伴う横環南線についての
国交大臣宛要請書の提出
- 07/26 東京外環による横環南見学会(会長)
- 07/28 NEXCO 伊藤工事長打合せ(会長 自宅)
- 07/30 低周波振動問題 ZOOM(会長)